

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 2739 号

Relationship between tea intake and cedar pollen allergy: a population-based cross-sectional study

お茶の摂取量とスギ花粉症との関係：集団ベースの横断研究

青木 のぞみ (あおき のぞみ)

博士 (医学)

論文内容の要旨

緑茶は、生活習慣病、感染症、アレルギー疾患など、さまざまな疾患に対して有益な効果が報告されている。アレルギー疾患に対しては緑茶に含まれる一種のカテキンがアレルギー症状緩和につながるとの先行研究があるものの、このテーマに関する疫学的および血清学的な評価を行った研究は限られている。本研究では、様々な種類のお茶の摂取量とスギ花粉特異的免疫グロブリン E (IgE) 値との関連を調べることを目的とした。東北地方の宮城県と岩手県に住む 66,874 人のコホート対象者のデータのうち、欠損データのない 16,623 人を抽出し、血液検査で評価されるスギ花粉特異的 IgE 値と、自記式質問票から得られたお茶 (緑茶、番茶、ウーロン茶、紅茶) の摂取頻度との関連を分析した。具体的には、4 種類のお茶の摂取頻度 (G1: 週 1 回未満、G2: 週 1~6 回、G3: 1 日 1 回以上) とスギ花粉特異的 IgE の血清レベル (陽性; 1.4 LC: Lumicount values 以上, 陰性; 1.4 LC 未満) との関連を多重ロジスティック回帰分析を用いて解析した。スギ花粉特異的 IgE 陽性とお茶の摂取頻度との関連は、緑茶を 1 日 1 回以上飲む群 (G3) では有意な逆相関があることが示された (G3: 調整オッズ比=0.81、95%信頼区間=0.70-0.94、 $p < 0.01$ vs G1、両側 p 値が 0.05 未満を統計的に有意とみなした)。一方、その他のお茶 (番茶、ウーロン茶、紅茶) では、スギ花粉特異的 IgE 陽性との有意な関連は認められなかった。本研究で緑茶摂取頻度とスギ花粉抗体に対する逆相関が示されたことから、今後はアレルギーに関する詳細な情報と、緑茶類の摂取量、カテキン含有量との関連、および因果関係について更なる客観的情報を含む研究の発展が期待される。